

工作部門長 喜多 英治

今年も部門前の梅が咲き、人々の目を楽しませてくれています。梅は茨城県の「県の木」に制定されていて、なじみの深い花で、桜とは異なり1ヶ月以上も咲いていて楽しませてくれます。部門前の梅も創設以来、ずっと変わらず咲いてきたことだと思います。

工作部門は開学当初、この地の未整備の研究環境を補うために多大に貢献し、与えられた研究支援の使命は十分果たされてきました。しかし大学を取り巻く環境は、近年徐々に変化してきて特に法人化以後は、大学の考え方が大きく変化しています。工作部門の使命は開学以来、研究支援とされてきました。研究を取り巻く環境も大きく変化し、高度な情報化社会となって情報伝達の手は飛躍的に向上しました。グローバル化の影響ははなはだ大きく、世界中の情報が机の上で手に入る時代です。研究機器も世界中から調達することができることになり、平凡な研究や教育は埋没してしまいます。このような状況でオリジナリティーを発揮するためには研究や教育において大事な思いつきやアイデアを障壁なく実現させ、それを発展させていく「ものづくり」の機能が欠かせません。この機能を活かして、教員の研究成果だけではなく学類学生や大学院生の教育を通じて社会に還元することが、大学における工作部門の責任だと考えます。

これまで研究支援を前面に業務に励んできた工作部門も、しばらく前から教育貢献をその使命として加えてきました。今後はさらにその役割を吟味し、積極的な取組が部門として必要となるでしょう。このような部門の変遷と新しい姿を梅の木も見守っていてくれるはずですよ。